

\*\*\*\*新島襄・同志社を良く知るためのメルマガ「同志社ファン・レポート」【DFR】\*\*\*\*

第57号・平成27（2015）年3月1日

同志社ファンを増やす会 発行

## 1. <ご報告> 同志社創立者 新島襄生誕之地 碑前祭

学校法人同志社が主催、同志社校友会東京支部後援で次の式次第に沿って行われました。

- ・日時：2015年2月12日（水）10:45より
- ・場所：東京・神田一ツ橋「新島襄先生生誕之地」碑前  
千代田区神田錦町 学士会館横

### 式 次 第

司会：学校法人同志社 法人事業部長 北 幸史

- ・賛美歌 312 一同
- ・聖書朗読ならびに祈祷 学校法人同志社 理事長 水谷 誠
- ・式 辞 学校法人同志社 理事長 水谷 誠
- ・挨拶 同志社校友会東京支部長 兒玉正之  
錦町三丁目 町会長 前田智彦
- ・Doshisya College Song 一 同
- ・祝 祷 学校法人同志社 理事長 水谷 誠
- ・献 花 学校法人同志社 理事長 水谷 誠  
同志社校友会東京支部長 兒玉正之  
錦町三丁目 町会長 前田智彦

(なお、写真を同志社ファンを増やす会の facebook にアップしています。)

その後、「記念講演会」が学士会館 201号室にて開催されました。

- ・演題：「江戸っ子・新島襄の夢～神田に錦を飾る～」
- ・講師：本井康博氏（元同志社大学神学部教授、新島襄の語部としてご活躍中）
- ・主催：同志社校友会東京支部、同志社同窓会東京支部。
- ・後援：神田錦町三丁目町会、一般社団法人学士会、株式会社学士会館精養軒、  
千代田区観光協会。
- ・場所：学士会館 201号室 ・参加費：無料

## 2. 講演録「江戸っ子・新島襄の夢 ー神田に錦を飾るー」

講師：本井康博氏（元同志社大学神学部教授）

＜講演記録の要約・文責：多田 直彦＞

### \*要約について

講演会は地元神田錦町町内会などの後援をいただき開催された。従って、聴講者には同志社関係者以外の方も多く、本井先生はそのことに配慮された内容で話されました。しかし、ここでは「同志社ファン・レポート」の読者を思い浮かべて要約しました。

新島は天保 14（1843）年、ここ神田錦町にあった安中藩邸で生まれました。そして、明治 23（1890）年に大磯で亡くなっています。その生涯は、3つに分けられます。

まず、第 1 ステージは、誕生から密出国するまで。第 2 ステージは横浜に帰国するまで。そして、第 3 ステージは帰国後から亡くなるまで、です。

実は、この区切りについて月日の表記で揺れが生じています。その原因は旧暦と新暦、西暦と和暦の混乱です。新島の誕生日は和暦では天保 14 年 1 月 1 4 日です。西暦では 1843 年 2 月 12 日にあたります。今日は 2 月 1 2 日ですから、生誕を記念するイベントとしては、ベストです。しかし、この学士会館前にある記念碑の英文のキャプションでは、**Jan.fourteenth,1843** となっています。これは西暦と和暦の混合から来る混乱です。

また、函館に「海外渡航の地」碑がありますね。現地で同志社が開催する碑前祭は、毎年 6 月 15 日に行ないます。なぜか旧暦で祝うことになっています。これに対して、新島が帰国した日や永眠日は新暦しかありませんから、混同はありません。

もう一つ混乱があるのは、新島の死亡年令です。現在でも 46 歳、47 歳、48 歳の 3 通り出てきます。正解は 46 歳なんですけど、生涯としては、約 47 年間の人生でした。

そのうちの 21 年 5 か月間をここ神田錦町で過ごしました。新島は長男で、名前は七五三太（しめた）。これはよく知られていますが、少年時代には「平涯」という絵画の号を持っていました。さらに元服後は「敬幹」（読み方不詳）という名（諱）になりますが、以後も相変わらず七五三太を多用しています。

彼が江戸を長期間、離れたのは、2 回しかありません。お殿様の護衛で上州安中に行ったときと、備中松山藩の洋式船「快風丸」に乗船して岡山の玉島（現倉敷市）まで航海した時だけです。後者の経験、いわゆる「玉島航海」は、新

島の人生で画期的な意味を持ちました。なぜか・・・

新島は、父(民治)の祐筆という仕事を継ぐことを嫌っていました。それ以上に、出仕に嫌気がさしておりました。新島が最初に仕えた殿様は、安中藩主・板倉勝明(かつあきら)は「学者大名」の異名をとるほど、学問に理解があり、勉強好きな新島に特に目をかけてくれました。が、勝明の後を継いだ弟の板倉勝殷(かつまさ)は、まさに逆でした。学問に理解がなく、飲み食いが生きがいで、さらに人事も妾次第というあきれた殿でしたから、尊敬できませんでした。

新島は、次第に公私とも不自由な封建社会から飛び出し、自由を得たいと考えるようになりました。それを決定づけたのが、岡山・品川を3か月にわたって往復したあの「玉島航海」でした。ほぼ正方形の江戸藩邸での生活では、「空は四角」でした。けれども、船上から見た場合、「空は無限」、すなわち「空は丸」だったのです。

こうした体験をしてしまった以上、新島はもとの「籠のトリ」、「袋のネズミ」のような生活には、戻れません。自由になりたい、自由な社会を体験したい、といった想いが膨らみます。要するに「家出」です。

翌年、新島の姿が函館に見られます。自由な国を目指しての旅立ちです。ここから飛び出した新島は、10年後に「日本初の独立自由人」となって帰国します。「自由教育」の拠点として同志社を創設した新島の原点が、この神田錦町にあることを再確認したいと思います。■

### <本井康博先生の近況>

東京講演翌日の2月13日、京都の新島会館で学校法人同志社から「新島研究功績賞」を受賞されました。大河ドラマ「八重の桜」の時代考証を担当され、八重や襄、覚馬をめぐる講演を全国各地でされたこと、ならびに2005年から刊行開始された講演集『新島襄を語る』を全14巻で完結されたことなどが評価されました。

これで、この22年間に功績賞3回に論文賞を1回、都合4回の受賞になります。それだけ長く、深く新島研究に貢献してこられたという証でしょう。誠におめでとうございます

以上

### 3. <予告>映像で学ぶ「同志社基礎講座」

この講座を4/4, 14, 21, 28の4回で行います。会場は同志社大学東京オフィス。受講料は同志社大学と小原克博先生のご厚意で無料です。詳細は添付資料をご覧ください。お知り合いをお誘いいただきますよう、お願いいたします。